

特許情報分野の研究会活動を考える

— 関西圏中心に —

Study groups in Kansai area for patent information



HIT サービス研究所 代表

都築 泉

丸善株式会社、株式会社ジー・サーチ等において特許データベースサービス関連の業務等を担当。元大阪工業大学知的財産専門職大学院准教授。IPI-Forum(知財情報フォーラム)代表、ISForum 特許分科会運営委員長。2015(平成27)年度特許情報普及活動功労者表彰特許庁長官賞を受賞。

✉ izumitzk@nifty.com

1 はじめに

情報の世界の急激な変化・進歩、技術の飛躍的な発展と歩調を合わせ、特許情報分野の潮流は常に大きく変化している。10～15年前頃までは、特許情報担当者にとっては、特許情報、調査、解析に関わる仕事が大きな部分を占めていたが、今や、AI技術の驚くべき発展と多様な情報ツールの日進月歩の進化に伴って検索調査や情報分析の種類・方法は、それらを選択し利用するための知識と共に、日々大きく変化している。

特許調査・情報分析に関わる方々にとっては、既存の情報の変化を追いかけるとともに、新たなツールへの目配りも欠かせない。また、自身のスキルアップや知識のリニューアルのためにも、社外での情報交換・研鑽の場は大変重要である。Web上では多くの情報があふれており、情報収集には事欠かない現状ではあるが、やはり生身の人間とのコミュニケーションを通じての情報交換の役割は大きく、筆者もいくつかの研究会に参加することで、その恩恵にあずかってきた。

今回は、関西に拠点をおく研究会・情報交換グループの中から、筆者が代表・事務局となっているIPI-Forum(Intellectual Property Information Forum; 知財情報フォーラム)の活動を中心に、合わせて、関西圏で活動しているいくつかの研究会についても簡単に紹介する。これらの活動の中で得たものを振り返り、今後の継続と発展に結びつく機会としたい。

2 IPI-Forum (知財情報フォーラム)

- ・開催頻度：年4回程度
- ・参加費：無し
- ・事務局・連絡先： izumitzk@nifty.com (都築)

IPI-Forum (Intellectual Property Information Forum; 知財情報フォーラム)は、「ISForum 特許分科会」から、スピンアウトして発足した研究会(勉強会)であり、メンバーの情報交換を中心に据えて活動している。

2.1 発足の経緯～ISForum 特許分科会との関わり

IPI-Forum(知財情報フォーラム)の原点である「ISForum 特許分科会」とは、情報科学技術協会(INFOSTA; INFORMATION SCIENCE AND TECHNOLOGY ASSOCIATION JAPAN)^[1]の行っている資格試験「検索技術者検定」^[2]の合格者の有志により結成され、関西を中心に活動している研究グループIS Forum^[3]の下部機関の一つである。IS Forumのメンバーのうち、特に特許情報に関わる者の専門的な活動の場として、1997年12月に活動を開始した^[4]。

ISForum 特許分科会は、1997年12月の第1回研究会後、2005年末まではほぼ2か月に1回の頻度で研究会を開催していた。しかし、部署移動や転職等による退会者もあり、定例的な研究会への参加者が次第に減少し、2006～2012年の期間は、年に1回程度、細々と続いている状態であった。一方で、「特許情報」

に関わる人達が、必ずしも従来型の「情報検索のプロ」を目指すだけでなく、特許出願業務や知財戦略そのものを仕事のメインに置く人も増えてきた。これらの状況を踏まえると、情報科学技術協会の行う「検索技術者検定」の合格者に対してだけ特許分科会への入会を勧誘するのではメンバーの増加や会の活性化に結び付きにくい、と感じられた。筆者はISForum 特許分科会の運営委員長として、最も参加者数の減少した2012～2013年前半頃の実質的活動メンバー約5名と共に、何とか会を活性化する方法の検討を重ねた。

2.2 拡大研究会の試みから IPI-Forum の立ち上げへ

検討の結果、「検索技術者検定」の合格者以外にも広く声をかけて、まずは研究会に関心をもってもらうと、参加資格を問わずだれでも無料で参加できる場として「拡大研究会」を企画し、2013年9月に開催した。このときは21名の参加者を得て、うち3名がIS Forum および、ISForum 特許分科会に正式メンバーとして入会し、一定の効果があつたと喜んだ。

そこで、このスタイルの活動を一定の形で継続的に、かつ柔軟に広げようと、翌年の2014年にもISForum 特許分科会の枠の中、「拡大研究会」の形で再度開催しようと計画した。しかし、基本的な問題に直面した。

というのは、このような流れの中で、IS Forum の正式メンバーではない方々も特許分科会の活動に加わり貢献して下さる形の体制に自然となっていた。しかし、一方で「ISForum 特許分科会」を名乗るからには、母体である「IS Forum」のメンバーであることが必要だ、というもっともな意見がIS Forum 内部から出てきた。IS Forum のメンバーは、情報科学技術協会が行う検索技術者検定に合格すること以外にも、入会費や年会費を支払う、というそれなりの負担を背負った上で参加している。それらとの釣り合いを考えると、IS Forum のメンバー以外の方々を「ISForum 特許分科会」の正式なメンバーとして迎えて本格的な活動をするのは適切ではない、という当然の意見であった。

だが、検索技術者検定は年に1回のみであり、また、特許を中心とした知財情報に関わる方々は、仕事の中心が出願業務や企画開発・情報分析などで、必ずしも検索技術者検定とは結びつかない場合もある。それゆえ、検

索技術者検定の合格者が入会条件となる「ISForum 特許分科会」の形だけでは、参加者を広げるにも限界があると思われた。

そこで、「ISForum 特許分科会」から、スピナウトする形で、(情報検索試験の合格資格の有無は問わずに)知財情報に関心がある人が入会できる別の研究会として、2014年の10月末に、新たにIPI-Forum (知財情報フォーラム) を立ち上げることにした。

現時点では、特許分科会としての研究会の開催は、2014年10月21日の第59回研究会が最後となっている(表1)。ただし、特許分科会は今も存続しており、主としてメーリングリストでの情報交換やイベント紹介の手段として役立っている。そのうち、近況報告の懇親会を開きたい、と思っている。

2.3 現状

このような流れを経て、IPI-Forum は2015年2月の第1回研究会以降、少しずつメンバーを増やししながら、現在も元気に活動を続けている。9月10日には第17回研究会として「拡大研究会」を開催し、研究会のメンバー21名と外部からの参加者14名、合計35名で開催された。2012年の特許分科会の頃、5～6名で開催していた時期と比べると格段の人数増加で、これもメンバー各位のご尽力の賜物、特に“魅力的な発表テーマ”のお陰と、誠に有難く嬉しく思っている。

こういう次第で、ISForum 特許分科会としての活動期間も含めると、1997年12月以降、ほぼ22年間活動を継続していることになる。現在は、登録メンバー数は約45名、実働の参加者は20名強という状態で、まずは活性化できているかな、と少し安堵している。だが、時の流れと共に、旧来のメンバーのなかには、徐々に活動から抜けていく方がおられるのも事実である。

2.4 活動・運営の基本方針

会の発足当初に、当時のメンバーに諮って基本的な運営方針を決め、それ以降大きな変化はなく、ほぼ以下の形で運営されている。

- ・活動の基本方針：特許を中心とした知財情報に関心を持つ有志による勉強会(情報交換会)であり、情報のGive&Takeの精神で、年に3～4回程度研究会を開催する。また、年に1回、通常の参加者以外にも広く

活動を知っていただくため、メンバー以外の方にも声掛けをして参加を募る「拡大研究会」を開催している。この「拡大研究会」は新メンバー獲得に有効な機会となっているが、通常の定例研究会でも「見学参加」として、まずは一度参加いただき、様子を見てもらってから入会するかどうかを検討いただく形にしている。

- ・連絡と情報共有：メーリングリストを利用、大阪工業大学知的財産研究科のSNSで情報共有
- ・会費等：入会金や会費は無し（今後費用が発生する場合は、都度集金の方向で検討）
- ・広報：研究会開催の都度、INFOSTAに後援いただき、雑誌「情報の科学と技術」およびメールマガジンで研究会の開催案内を掲載していただいている。これらの広報を見て会に参加くださる方もおられ、誠にありがたく、深く感謝している。

2.5 発表テーマ

この会は、情報のGive&Takeで成り立っている会なので、メンバーには、1～2年に1回ぐらいは何か発表してください、としているが、それほど厳密ではない。隔回に一度ぐらい熱心に発表して下さる方もおられる一方で、仕事の都合等でなかなか発表できない方もおられる。さほど無理をしなくても、適宜、自主的な発表の申し出があるので、結果的には円滑に回っている。

発表テーマは、知財・特許・情報の扱いなどに“掠る程度でも”関係があれば何でもよい、としている。他の研究会やセミナーへの参加報告なども歓迎しており、以前は10分程度の気軽な発表も多々あったが、最近は、他の研究会で自らが行った研究成果の紹介が増えてきたこともあり、テーマの掘り下げも深くて中身の濃いものが多くなってきた。

研究会で発表されたテーマを表1～表5に示す。表中の「演者」の欄に「講演」とあるのはボランティアで講演くださったものであり、講師名と共に挙げている。M1,M2、M3・・・等はメンバーによる発表、「FD」はフリーディスカッションを示す。なお、表にまとめるために、文字数の関係などでオリジナルのタイトルを内容を変えない範囲で多少短縮したものもある点を了承いただきたい。

これらの表で示されている研究発表テーマを見ると、知財戦略、海外特許庁データベース、無効資料調査、概

念検索などの比較的普遍的なテーマは繰り返し取り上げられていることがわかる。2016年以降は、AI技術への高注目時代を反映して、IoT、AI、Deep Learningなどのキーワードが散見される。また、2018年前半には、研究会当日の午前中に、メンバーの一人がKHCoderの説明会を演習付きで行ってくれたこともある。最近は、高度な情報解析例を紹介される発表がしばしば行われている。また、一方で、中国特許制度や手続きに詳しい方々、知財戦略に長けたメンバーもおられ、毎回、多様な発表がされている。当研究会以外にも活動の場を持っているメンバーは、他の研究会での研究発表や学会発表、講師として説明された講義内容のポイントなどをこの場で紹介して下さることも多い。様々なバックグラウンドや知識をもつメンバーが居られるお陰で、取り上げられるテーマの幅は広く、出席者には大いに有益である。

一方で、ちょっとした身近な情報紹介や受講したセミナー内容の紹介などの比較的軽い話題の「小ネタ発表」は減少傾向にある。「大ネタ」だけでなく「小ネタ」も取り込み、今後もいろいろな立場の方が短時間で気軽に発表できる場としても活用されることを望んでいる。

2.6 継続と活性化のために

このような“ゆる～い”研究会が継続し一定のレベルでの活動を維持するには、参加者数ある程度維持することがまずは最も基本となる。しかし、担当業務の変更や転職・退社等で、どうしても参加者数は自然減少する。そこで必要なのは、継続的に新メンバーに入っていくことである。そのための広報やら、日頃から新しく知り合った方々へのお誘いは大変重要である。

また、会のメンバーが何に関心があるのか、テーマや講演では何を期待しているのか、などの意見を募って、外部の適切な講演者に来ていただくことも肝要である。そのため、開催案内と共に、「ご意見募集・適当なボランティア講師のご推薦お願い」のメールを送っているのだが、あまり反応が無い。アンケートの実施など、工夫が必要と考えている昨今である。

3 3i 研究会

・活動期間・開催頻度：現在、第7期（8月～翌年2月）、

表 1 IPI-Forum 発表テーマ -2015 年

回	開催日	演者	テーマ
ISForum 特許分科会第 59 回研究会 (ISForum 特許分科会としての最終回の研究会)			
	2014/10/21 (拡大研究会)	M1	ISForum 特許分科会の紹介
		M2	新研究会 (IPI-Forum) の設立について
		M3	欧米特許調査における特許分類の現状 & WIPO PATENTSCOPE の活用
		M4	PATOLIS → JP-NET 移行苦労話
		M5	IPDL から新システムへの移行について
		M6	IPDL 審査書類情報照会～仕事に役立ったこと、特許庁審査官との面接で注意を受けたことなど
IPI-Forum (知財情報フォーラム) としての研究会			
1	2015/2/17	講演	アジア諸国の特許法比較とその課題 講師：大阪工業大学 知的財産専門職大学院 教授 村川一雄氏
		M1	特許分類、公報番号変換ツール紹介
		M2	平成 26 年改正「救済措置の拡充等」について
		M3	J-PlatPat について
		M4	こうすれば良かった NG 検索
		M5	公報データベースの公報めぐりでマウス操作が煩わしい件
		M6	製品技術の開示リスクとその回避方法の一例
		M7	タイ特許庁 HP (DIP) で検索するときの注意点
	M8	米国特許の CPC 分類付与状況	
2	2015/6/20	M1	企業における事業ステップと特許業務 (特許調査、パテントマップ、知財戦略) ～事例：THE 調査力を使った特許業務の効率化
		M2	グローバルドシエについて / 日本特許庁の調査範囲について
		M3	特許分類 part2- 分類対照ツールの IPC データから、階層化した説明の表について、等
		M4	公報の図面番号から対応部材の説明を探すのに苦労する件について
		M5	インド特許庁が新たに提供を開始した Indian Patent Advanced Search System (InPass) について
		M6	J-PlatPat の古い文献検索で若干苦労した件～ J-PlatPat で収録外の特許登録番号しか分からない古い文献を入手したときの小話
		M7	海外学会のご紹介～ IPI- ConfEx と PIUG
3	2015/9/29 (拡大研究会)	M1	不正競争防止法改正について
		M2	欧米特許調査における特許分類の現状 & 最近の動き等
		M3	中国・韓国・台湾の他社特許抽出の課題と対策
		M4	J-PlatPat に関する簡単な留意点
		M5	知的財産学部生に利用を薦める情報管理・分析ツールについて
4	2015/12/16	講演	①中国の早期公開特許と SDI・ウォッチング ② JPO 中韓文献翻訳・検索システムの実態と活用法 ③中国、台湾、韓国の審査経過情報の実態と活用 講師：アジア特許情報研究会代表 伊藤徹男氏
		M1	中国の特許検索で気づいたポイント
		M2	中国特許検索のキーワード選定における中国人関与による精度向上
		M3	開放特許情報と弊社取り組み
		M4	他社 PCT 出願の国際調査見解書確認
		M5	タイ特許庁 HP (DIP) の調査方法に関して

毎月 1 回開催

- ・参加費：INFOSTA 正会員の場合：20,000 円、詳細はホームページを参照^[5]
- ・事務局／主催機関：INFOSTA^[1]

3.1 活動概要

3i 研究会は特許や学術論文のみならず、ビジネス情報や各種ウェブ情報など多種多様な情報源および分析ツールを用いて、情報分析・活用スキルの獲得を目指す場として、INFOSTA により運営されている (3i: Information, Infrastructure, Innovation)。また、複

表2 IPI-Forum 発表テーマ -2016年

回	開催日	演者	テーマ
5	2016/3/16	講演	知的財産の価値評価と活用に向けて 講師：大阪工業大学 知的財産専門職大学院 教授 村川一雄氏
		M1	自動ブレーキに関する国内と中国の動向 (INFOPRO での発表より)
		M2	「職務発明規定の見直し」について
		M3	実務で困ったこと
		M4	Family 国別抽出、および、この式・ファイルを使った別の使い方の紹介
		M5	IPI-ConfEx 参加報告
6	2016/7/12	M1	ASEAN の特許制度と特許調査について
		M2	表計算ソフトで特許情報利用
		M3	CPC を使った日本特許検索の補完
		M4	UBIC の PatentExplorer について～ AI を利用した特許調査システムの体験説明会報告
		M5	PIUG (Patent Information User Group) Annual meeting(5.22-25) 参加報告 ～ 最近の EPO 関係のサービス (PatStat) 等
7	2016/12/12 (拡大研究会)	M1	中国における最近の特許事情及び中国特許審査制度
		M2	人工知能搭載特許・論文検索ツール XLPAT について～人工知能に関する話題
		M3	フリーソフトを用いたテキストマイニング Part 1- テキストマイニングの説明
		M4	インターネット利用による情報分析
		M5	投資対象としての知的財産の可能性 (への取り組み・位置付け)
		FD	特許情報フェアへの参加報告等

表3 IPI-Forum 発表テーマ -2017年

回	開催日	演者	テーマ
8	2017/2/21	M1	フリーソフトを用いたテキストマイニング - テキストマイニングの説明 Part2 ～フリーソフト編
		M2	IoT の新特許分類記号『ZIT』
		M3	FI に対応する的確な CPC の見つけ方
		M4	日本と米国の判例情報取得について
		M5	ヒット商品を、知財情報で掘む
		講演	XLPAT の新機能について 講師：XLPAT Labs (Co-Founder (共同創業者) Mr. Sandeep Singh Kohli"
9	2017/6/20	講演	第1部：企業における特許調査、第2部：特許調査で分かる日本の企業経営の問題点 講師：大阪工業大学 知的財産専門職大学院 教授 西岡 泉氏
		M1	自動ブレーキの周辺技術の動向ー歩行者認識技術における特徴技術の抽出ー
		M2	特許検索における web ツールの活用
		M3	製薬分野における特許と特許等情報分析
		M4	PIUG および IPI-ConfEx 参加報告、海外特許庁 DB 関係のニュース等
		FD	情報交換のためのフリートーク
10	2017/10/24 (拡大研究会)	M1	自社が勝つパテントマップの作成と知財戦略の実践方法
		M2	PPH (特許審査ハイウェイ) はどう運用されているのか
		M3	海外特許情報関係の最近のニュース等～ PATENTSCOPE の化合物検索、SOOIP、米国特許の CPC 付与状況、Espacenet 関連ニュース

数のデータベースや解析ツールの提供機関の協力を得、メンバーはそれらのツールを利用して研究を行うことができる^[5]。

例年、8月頃から7～8ヵ月間を一つの期としてメンバーを募集し、参加者は4～7名程度のグループに分かれて研究テーマを設定し、アドバイザーの助言を受けつつ、各グループのリーダーのもと、当該期の最後まで

に研究の成果をまとめる。その研究成果は、3i 研究会メンバーと関係者が出席する最終報告会でのプレゼンテーション、情報関係に関心のある方々が多く参加される研究発表の場として INFOPRO での発表、さらには、INFOSTA の会誌である月刊雑誌「情報の科学と技術」に論文投稿するのが一連の活動となっている。3i 研究会の過去の研究活動成果は Web で紹介されている^[6]。

表 4IPI-Forum 発表テーマ -2018 年

回	開催日	演者	テーマ
11	2018/1/23	M1	車載認識装置における自転車認識技術の動向トピック分析による認識技術の分類
		M2	韓国特許制度と特許調査について
		M3	商標調査と権利化
		M4	人工知能を使った知財 AI システム “Deskbee” の紹介
		M5	IoT の調査方法と活用事例ー介護・福祉分野
		M6	IoT の農業 (+ 漁業・林業) への活用～調査方法の検討、J-GLOBAL のニュース等
12	2018/5/22	説明会	KHCoder 利用説明会 (AM:10:30-12:30) 講師：(メンバー) JFE テクノリサーチ 平川雅彦氏
		講演	事業戦略に直結した特許調査 講師：大阪工業大学 知的財産専門職大学院 教授 才川 伸二郎氏
		M1	ディーゼル自動車用パーテキュレートフィルターの開発と特許調査
		M2	J-PlatPat の最新機能
		M3	身近な IoT と知的財産
13	2018/7/24	講演 1	特許無効調査～裁判に耐える証拠作り 講師：大阪工業大学 知的財産専門職大学院 教授 才川 伸二郎氏
		講演 2	Japio の取組み、世界特許情報全文検索サービスのご紹介 講師：日本特許情報機構 (Japio) 営業推進部 部長 高橋 幸生氏
		M1	眼科分野の特許調査
		M2	概念検索を用いた出願前調査方法の提案
		M3	学術論文への AI による IPC 付与と、産学連携への適用ー京大阪大神大の分析結果
14	2018/11/27 (拡大研究会)	講演	INPIT - KANSAI の取組みについて 講師：(独) 工業所有権情報・研修館近畿統括本部 (INPIT-KANSAI) 統括知財戦略エキスパート 川島 泰介氏
		M1	機械学習 SVM による歩行者認識特許の分類
		M2	国際出願から日本への移行のウォッチング
		M3	Espacenet による検索を学び直す
		M4	アジア特許情報研究会 10 周年記念講演会 11/29 (木) ~ 30 (金) に向けて
FD	情報交換～特許情報フェア (11/7-9) での話題等		

表 5 IPI-Forum 発表テーマ -2019 年

回	開催日	演者	テーマ
15	2019/3/12	講演	中国における知的財産活動の現状と今後 講師：大阪工業大学 知的財産専門職大学院 教授 村川 一雄氏
		M1	AI 研究会 2018 発表内容：Deskbee 使い勝手の検証
		M2	Espacenet の高度な検索機能を学ぶ
		M3	アジア特許情報研究会 10 周年記念講演会に参加して
16	2019/6/11	講演	知財情報から得られるモノとコト 講師：株式会社サピエンティスト 代表取締役 下出 一氏
		M1	ぱっとウェブ収集 (google 版) のご紹介～新聞情報活用を事例に
		M2	J-GLOBAL について
		M3	テキストマイニングの基礎技術 - 正規表現を利用した特許情報の加工方法
		M4	Espacenet β 版における検索結果のフィルタリング (PI News 01/2019 より)
		M5	IPC の遡及付与等について
FD	情報交換のための座談会		
17	2019/9/10 (拡大研究会)	M1	新規テーマ・新規企画立案に役立つ機能ツリーの作成方法
		M2	非特許文献の分析 (仮題)
		M3	知財管理スキルガイドラインの紹介
		M4	SME (中小企業) における知財活用と大学の役割 (仮題)
		M5	Deep Learning による産学連携の大学側研究者のクロス分析
FD	情報交換のためのフリートーク		
18	2019/11/12		(9 月 15 日時点では計画中；内容は今後決定)

3.2 参加の感想

メンバーは、協力機関から提供いただく多様なツールを利用でき、ディスカッションを通じて、いろいろな方々と知り合いになって議論できるのは大変嬉しい。参加者は自分たちで決めたテーマに沿って、毎月1回の研究会に参加し、宿題を持ち帰り、次回の研究会までに準備する。中間報告会や最終報告会、INFOPROでの発表、論文の用意等が一定の役割として課せられている。

これらの「義務(?)」は参加者にとっては大変有意義な機会だが、一方で、メンバーを派遣している企業の立場からは、どのように評価されているのか、若干気になるところである。研究テーマが直接、当該メンバーの企業に資するものであればあまり問題にならないだろうが、そうではない場合も多いと思われる。研究発表なども社員の良い勉強の機会だ、と上司や周囲の人たちが前向きにとらえてくれると良いが、そうでない場合はINFOPRO(例年7月に東京で開催)に参加できなかったり、次年度も継続的に参加するのは厳しくなる可能性が高い。研究成果の勤務先等へのアピールを参加者個人だけの責に帰さず、企業では評価されにくい学会発表などではない別の形での主催者側の組織的な切り口も望まれるところである。

4 情報技術研究会

- ・開催頻度：毎年5月に総会を開き、その後、基本的に奇数月に1回
- ・年会費：24,000円/年
(ただし、個人会員は別料金)
- ・事務局：株式会社ジー・サーチ(大阪営業所)^[8]
企画・運営はメンバーから選出された会長と役員による役員会が担務。

企業の知財情報担当者を中心に法人を会員として35年以上前から活動を続けてきた研究会である。発足当初は「IFIユーザー会」という名称であり、丸善株式会社がこの会を設立し事務局でもあった。その後、担当会社の組織変更等を経て事務局の名称も変更され、会の名称も変わった。初期には法人会員15～16名のメンバーが加入していたが、時の流れと共に法人会員が減少し、規約が改正され、現在は、個人会員の制度も導入されている。個人会員とは、かつて法人会員のメンバーとして参

加していたメンバーに限り、部署移動・転職等により法人会員として参加できなくなった場合に認められるものである。現在の法人会員は約6社、個人会員は5名、2か月に一度の研究会には、毎回10名程度が参加している。

例年5月に総会が開催され、会長・役員が選出される。メンバーによる輪番制の研究発表を行う(当番は1年～1年半に1回程度)。発表テーマは自分で自由に選定して決める。他に外部講師による講演会などが適宜開催される。各年度の前半は、通常の輪番制の発表と並行してグループに分かれて共同研究を行い、その成果は各期後半の宿泊研修会で相互に発表する。2018年度の研究のテーマは「無料ツール/無料DBの整理と活用」と「概念検索」であった。

5 知財 AI 研究会

- ・活動期間：現在、第2期(2月～翌年1月の1年間)
- ・開催頻度：中間報告会、最終報告会以外の通常のグループ活動の予定は、各グループで決定
- ・参加費：無料
- ・主催機関：アイ・ピー・ファイン株式会社

2018年の年頭から発足した。知的財産分野におけるAI技術及び効率化技術導入の効用等について研究し、知財AI技術の活用・発展を促進することを目的とし、会員はアイ・ピー・ファイン社の提供するR&D知財AIシステム「Deskbee 4」および、研究補助ツールとして「THE調査力」等を研究目的で無償利用できる。東京地区と大阪地区に研究グループが編成されており、4～6名程度のグループ単位、かつ1年単位でテーマを決めて研究活動を行う。各グループでリーダー、サブリーダーが選出され、グループ単位の研究活動は、各グループで決定して進める。期の途中で中間報告会、研究進捗促進のためのスキルアップミーティング、12月に最終報告会が開催され、研究会およびこれらの場ではアドバイザーによるアドバイスを受けることができる。

6 パテント・サーチャー研究会 in 関西

- ・開催頻度：不定期(3～4か月に1回程度)
- ・参加費：なし
- ・主催機関：主催：株式会社サピエンティスト^[9]

協賛：アイ・ピー・ファイン株式会社^[10]

特許調査に関わっている会社員、特許事務所、調査会社勤務者などが参加している。固定メンバー制ではなく、自分の都合の良いとき、関心のある回のみに出席すればよく、気軽に参加できる。出席者は毎回7~8名程度である。

日頃情報担当者が抱えている課題を出し合い解決を図ることにより情報検索に関する知識と技術を高めることを目的とする。以前は、協賛機関のアイ・ピー・ファイン社のスタッフからアジア特許情報のミニ講義や提供サービスの簡単な紹介を行っていたが、最近、主催・協賛機関の関係者や出席者からの話題提供が組み込まれている。毎回のプログラムに「サーチャーのための座談会」の時間があり（筆者が座長）、相互の情報交換の場となっている。

比較的小人数のこぢんまりした会で、社内での困りごとの解決策を求めたり、質問や議論が自由にできる点が良い。出席メンバーにより、思いもかけぬ方向で議論が白熱する場合もしばしばある。情報収集・情報分析・情報業界の動きなど幅広い話題が出て、多様性が面白い。

7 おわりに

関西地区で行われている研究会は、首都圏に比べると数は少ないが、それぞれにメンバーは熱心に活動している。上記で取り上げた研究会以外にも、Pat-List研究会^[11]、JPDSユーザー会^[12]等があり、それぞれ提供ベンダーさんにより運営され、東京地区などと平行して、大阪地区でも活動が行われている。また、拠点は首都圏あるいは関東であるが、関西在住のメンバーも参加している研究会として、アジア特許情報研究会^[13]、OUG特許分科会^[14]などもある。それぞれ特徴があり、興味深い活動が行われている。

情報の世界は動きが速く、自分だけでの情報収集では限界がある。研究グループに入って仲間を見つけ、情報交換するのは大変良いことで、自分自身がスキルアップできると共に仕事を楽しむことにつながる。まだこのような研究会・勉強会にあまり参加されていない方は、是非積極的に参加し、「仲間」を見つけて楽しく仕事の幅を広げる機会としていただければと思います。

参考文献

- [1] 情報科学技術協会 (INFOSTA) <https://www.infosta.or.jp/>
- [2] 検索技術者検定 <https://www.infosta.or.jp/examination/>
- [3] IS Forum (インフォ・スペシャリスト交流会) <http://isforum.jp/cms/>
- [4] “特許情報分野の研鑽の場の在り方—ISForum 特許分科会の活動から”，都築 泉，Japio YEAR BOOK 2014 p124-131
- [5] 3i 研究会 <https://www.infosta.or.jp/3i/>
- [6] INFOPRO <https://www.infosta.or.jp/symposium-top/>
- [7] 3i 研究会研究活動成果 https://www.infosta.or.jp/3i/3i_seika/
- [8] 株式会社ジー・サーチ（大阪営業所） <https://www.g-search.jp/>
- [9] 株式会社サピエンティスト <http://www.sapientist.com/>
- [10] アイ・ピー・ファイン株式会社 <http://www.ipfine.com/>
- [11] Pat-List 研究会 <https://www.raytec.co.jp/seminar/pat-list-study-group>, <https://www.raytec.co.jp/seminar>
- [12] JPDS ユーザー会 <https://www.jpds.co.jp/event/jiug.html>
- [13] アジア特許情報研究会 <https://sapi.kaisei1992.com/>
- [14] OUG 特許分科会 <https://www.infosta.or.jp/pat/index.htm>
- [15] “ネット座談会「女性活躍×特許情報業界」～特許情報業界のこれからに向けて～”，Japio YEAR BOOK 2018 p40-59